

10. 自然災害による被害の新顔

地殻変動により、地震動が発生すれば、地盤が揺れたり津波が発生するのはこれまでの経験からも容易に想定できます。しかし、最近は自然現象がこれまでと異なる挙動を示すようになってきて、発生頻度やその規模が大きくなっているようにも感じます。

そして、被害も社会構造が変遷していることに加え、これまでとは異なった被害やこれまで経験したことのない場所での被害を見ることも多くなってきたようです。例えば、海水温の変化による気象の変化、台風の進路変更、大地震後の影響で周辺の断層や破砕帯などの活発化というような現象です。また、高層建築物における長周期変動、谷埋め盛土すべり、地盤沈下というような変位も多くなっていますし、都市部では多雨のたびに内水氾濫が発生し、浸水氾濫に加えて車の水没、道路の陥没ということも懸念される状況です。

これらの背景には、地球温暖化、災害対象物の劣化や機能低下、大地震による地盤変動や脆弱化などが考えられています。そのような災害に対して、どのような備え、あるいは発生時の対応が考えられるかということになります。もちろん、ハードのものに対しては耐震化や浸水対策なども可能だし、機能低下に対しては補強や管理システムの構築といった方策があります。一方、住民は情報を適切に理解して行動することが大事なことになります。

特にこれからは、情報の発信側と受信する側での課題を解決することが必要になります。発信側では、できるだけ早く、間違いなく伝達するために、地域のリアルな状況を反映して判断するというシステムの構築が望ましいことになります。一方、住民は、避難情報を的確に判断して、確認されている避難ルートで早期に避難所へ移動することを基本とし、これ以外の第二の方法もあるという判断や評価が極めて重要になります。そして、複数人で明るいうちに避難することが大事で、日ごろの訓練がここで役に立つことになります。災害では思わぬ被害の発生を自覚して、先を見据えての避難方法を選択し行動しなければなりません。

最近の災害状況は、線状降水帯、台風の巨大化などといった変化で、被害が多様化してきています。このような状況に対して、早期に適切な情報で早めの避難をすることが大切です。そのためには、基礎的な知識と避難計画をもとに情報を適切に判断して行動することが大事で、先を見据えるための勘の醸成が必要です。